

教会月報

No.531 (2023年3月26日)
【2023年4月号】
日本キリスト教団埼玉和光教会
〒351-0114 和光市本町 15-50

共に生きる

岩河敏宏

聖書：ローマの信徒への手紙 12章 15節～16節

15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
16 互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。

2023年度の歩みが始まりますが、埼玉和光教会にとってこの一年は大きなチャレンジ（試行錯誤）の年になることが想定されます。これまで積み重ねてきた教会の歩みを客観的に捉えて、これからも継承していく事柄と、社会情勢の変化や教会の将来展望（内在する課題の認識と対処への道筋）を踏まえて変化させる事柄があります。この両者を見極めて、実行に移していくためには忍耐と覚悟が必要となります。そして、今年度がその時なのです。

冒頭の巻頭題と聖書（12章 15節）は、2023年度の教会標語と聖句として第二回教会総会に諮ることにしています。聖書で「教会」と訳されている元々の単語は、「ある目的を持って召し出された(呼び集められた)者たち」という意味で、神によりこの世からある使命をもって召し出された者たちの集合体を意味します。であるなら、神はどのような目的で私たちを召し出されたのでしょうか。教会という集合体で考える時に、巻頭題と聖書を掲げることが提案すること

に至りました。

埼玉和光教会の現状を省みる時に、教会の内外を問わず一人ひとりを活かす（主と繋がる）道が備えられている、その恵みを共有し実感できる場を目標にしたい、という想いが込められています。標語の聖句とした12章 15節また 16節は、この段落（9節～21節）の文頭にある“愛（大切に想う）”を基盤にして語られています。パウロは、前段で異なる賜物を与えられた者たちが一つの体を形成することを説いた（4節～8節）後に、多くの部分を統合する中核となるのが“愛”だと展開しているのです。自他の区別なく、そこに在る者を大切に想えるからこそ、喜びも悲しみも共にすることが出来るのです。

私たちも、パウロが説くこの視点に立って4月からの歩みを進めたいと考えています。教会に集う皆様が、自身の言動に“一人ひとりの存在を大切に想う”ことを基盤に据えているかを問いつつ、歩みを共にしたいのです。「互いに思いを一つにし、高ぶらず」と説くパウロは、イエスを救い主と信じる者同士でありながら、背景の違いにより不和を続けるユダヤ人と異邦人のキリスト信仰に苦慮しています。私たちは、従来の伝統的と新たな変化、教会員と新来会者の双方を調和させて、「共に生きる」教会を目標に掲げて2023年度を歩みたい、と主に祈ります。